

2026 年度 高3英語総合 S 〈後期英文解釈演習 2/10〉

(A)〈大阪大〉

重要語彙・語句・構文

- ☐ global economy 世界経済
 - ☐ as S V S が V するにつれて
 - ☐ supply chain 供給網、サプライチェーン
 - ☐ outpace [àutpéis] ～を上回る、～より速く進む
 - ☐ for ourselves and the planet 私たち自身と地球にとって
 - ☐ evolve to V V するように進化する
 - ☐ threat [θret] 脅威
 - ☐ clear and present 明白で目の前にある、明白で差し迫った
 - ☐ spoiled food 腐った食べ物
 - ☐ get nauseated 吐き気を催す
 - ☐ prepare A to V A が V できるように備えさせる
 - ☐ imperceptible [ìmpərséptəbl] 知覚できない、気づかないほどの
 - ☐ slow-moving, long-term danger ゆっくりと進行する長期的な危険
-

構文解説

① As the global economy has grown, our ability to make complex products with complex supply chains has outpaced our ability to comprehend the consequences — for ourselves and the planet.

[構文]主節の骨格は our ability to make complex products with complex supply chains / has outpaced / our ability to comprehend the consequences. outpace ～ は「～を上回る」の意味で、our ability to V が前後で対比されている。前者は「複雑な供給網を用いて複雑な製品を作る能力」、後者は「その結果を理解する能力」。文頭の As the global economy has grown は「世界経済が成長するにつれて」という比例・変化を表す。ダッシュ以下の for ourselves and the planet は the consequences の内容を補足し、「私たち自身と地球にとっての結果」という意味になる。つまり、製品を複雑化する能力の発達に、その結果を理解する能力が追いついていないという対比が中心である。

② We evolved to respond to threats that were clear and present.

[構文]骨格は We / evolved / to respond to threats. evolve to V は「V するように進化する」。that were clear and present は先行詞 threats を修飾する関係詞節で、「明白で目の前にある脅威」という意味になる。ここでは、人間の危険認識能力が、進化の過程で直接知覚できる目の危険に対応するよう形成され

てきたことを述べている。この内容が、次文の腐った食べ物と明るい光の例によって具体化される。

③ That's why, when we eat spoiled food, we get nauseated and when we see a bright light, we shut our eyes.

[構文]骨格は That / is / why ~ で、That's why S V は「それが S が V する理由である → だから S は V する」の意味。why 以下には when A, B and when C, D という二つの構造が並列されている。前半は when we eat spoiled food / we get nauseated「腐った食べ物を食べると吐き気を催す」、後半は when we see a bright light / we shut our eyes「まぶしい光を見ると目を閉じる」。いずれも、直前の clear and present threats に人間が即座に反応する具体例となっている。

④ But nothing in evolution has prepared us to understand the impact that imperceptible amounts of industrial chemicals may have on our children's health or the slow-moving, long-term danger of climate change.

[構文]骨格は nothing in evolution / has prepared / us / to understand A or B。prepare A to V は「A が V できるように備えさせる」で、主語が nothing in evolution なので、「進化の過程では、私たちが A や B を理解できるようにするものは何もなかった」という意味になる。

understand の目的語は A or B の並列で、A = the impact [that imperceptible amounts of industrial chemicals may have on our children's health]、B = the slow-moving, long-term danger of climate change。A 内部の that は関係代名詞で、have an impact on ~ 「～に影響を及ぼす」の目的語 the impact が先行詞として前に出ている。したがって、「知覚できないほど微量の工業化学物質が子どもたちの健康に及ぼす可能性のある影響」となる。B は「ゆっくりと進行する気候変動の長期的な危険」であり、前文の clear and present threats と鮮明な対比をなしている

下線部和訳 | 採点のポイント

But nothing in evolution has prepared us to understand the impact that imperceptible amounts of industrial chemicals may have on our children's health or the slow-moving, long-term danger of climate change.

① But nothing in evolution[1点]

nothing を主語として正確に捉え、「しかし、進化の過程では～するものは何もなかった」と処理できていること。nothing の否定を訳し落とさない。

② has prepared us to understand ～[2 点]

prepare A to V を「A が V できるように備えさせる」と捉え、ここでは「私たちが～を理解できるようにはしてこなかった」と自然に処理できていること。

③ the impact that ～ may have on our children's health[2 点]

that が *the impact* を先行詞とする関係代名詞であり、have an impact on ～ の構造を復元して、「～が子どもたちの健康に及ぼす可能性のある影響」と訳せていること。

④ imperceptible amounts of industrial chemicals[2 点]

imperceptible が *amounts* を修飾していることを捉え、「知覚できないほど微量の工業化学物質」と適切に処理できていること。

⑤ A or B の並列構造[1 点]

the impact ... or the ... danger が *understand* の二つの目的語として並列されていることを見抜き、「A や B を理解する」と処理できていること。

⑥ the slow-moving, long-term danger of climate change[2 点]

slow-moving と long-term がともに *danger* を修飾していることを捉え、「ゆっくりと進行する気候変動の長期的な危険」と正確に訳せていること。

採点目安:10 点満点

9～10 点: *nothing in evolution* の否定、prepare A to V、関係代名詞 that、have an impact on ～、A or B の並列をすべて正確に把握し、文全体を自然な日本語で表現できている。

7～8 点: 文全体の骨格は正確だが、*imperceptible amounts*、*slow-moving*、*long-term* などの語句の処理に軽微な不正確さがある。

5～6 点: 大意は取れているが、prepare A to V または the impact that ～ may have on ... の構造に重要な誤りがある。

4 点以下: nothing / has prepared / us / to understand A or B という中心骨格を捉えられず、「人間は進化の過程で、知覚しにくく長期的な危険を理解するようには備えられてこなかった」という中心内容が十分に表現できていない。

最重要採点ポイントは、① *nothing in evolution* が文全体の否定を担う主語であること、② prepare A to V の構造を正確に処理すること、③ the impact that ～ may have on ... で have an impact on ～ の語順を復元すること、④ *understand* の目的語が the impact ... or the ... danger の並列になっていることを見抜けているかどうかです。

(B)全訳

世界経済が成長するにつれて、複雑な供給網を用いて複雑な製品を作る私たちの能力は、それが私たち自身や地球にもたらす結果を理解する能力を上回るようになってきた。私たちは、明白で目の前にある脅威に反応するように進化してきた。だからこそ、腐った食べ物を食べれば吐き気を催し、まぶしい光を見れば目を閉じるのである。しかし、知覚できないほど微量の工業化学物質が子どもたちの健康に及ぼす可能性のある影響や、ゆっくりと進行する気候変動の長期的な危険を理解できるようには、進化の過程で私たちは備えられてこなかったのである。

(B) [下線部和訳]〈京都大予想問題〉

重要語彙・語句・構文

- ☐ technological progress 技術的進歩
 - ☐ expand human freedom 人間の自由を拡大する
 - ☐ available to ~ ~が利用できる、~にとって利用可能な
 - ☐ an abundance of ~ 豊富な~、多数の~
 - ☐ not necessarily ~ 必ずしも~ではない
 - ☐ Neither + 助動詞 + S + V ~ SもまたVできない
 - ☐ underlying [ˌʌndərˈlaɪɪŋ] 根底にある、基礎となる
 - ☐ mechanism [məˈkænɪzəm] 仕組み、機構
 - ☐ remain invisible to ~ ~には見えないままである
 - ☐ beyond one's control ~の力・支配の及ばない
 - ☐ Not only + 助動詞 + S ~, but ... ~だけでなく…も
 - ☐ under which ~ そのもとで~する
 - ☐ amount to ~ ~に等しい、~を意味する
 - ☐ find O C OがCであると分かる、OをCだと思う
 - ☐ distinguish A from B AとBを区別する
-

構文解説

① Neither can individuals who have gradually come to depend on systems whose underlying mechanisms remain largely invisible to them easily determine how far their choices have been shaped by forces beyond their control.

[構文] 文頭の Neither によって倒置が起こっている。通常語順は individuals ... cannot easily determine ~ either であり、骨格は Neither / can / individuals / easily determine ~。「~する人々もまた、容易に判断することはできない」となる。

難しいのは、主語 *individuals* と本動詞 *determine* の間が非常に長いことである。*who have gradually come to depend on systems* ～ は *individuals* を修飾する関係詞節で、さらにその中の *systems* を *whose underlying mechanisms remain largely invisible to them* が修飾している。

したがって、*Neither / can / individuals [who ～ systems [whose ～]] / easily determine* ～と修飾部分をいったん括って読む。

how far their choices have been shaped ～ は *determine* の目的語となる間接疑問節。*how far* ～ は「どの程度～か」、*have been shaped by* ～ は現在完了の受動態、*forces beyond their control* は「自分たちの力の及ばない要因」である。

② *Not only will there be more decisions for individuals to make, but the conditions under which those decisions are made will themselves be shaped by forces that few individuals fully understand.*

[構文] *Not only* という否定的表現が文頭に置かれたため、前半で倒置が起こっている。通常語順は *there will be more decisions* ～ だが、*Not only / will / there / be / more decisions* ～となる。

全体は *not only A but B*「AだけでなくBも」の構造。

for individuals to make は *decisions* を修飾する不定詞で、「個人が行うべき決定」。後半の主語は *the conditions [under which those decisions are made]*。*under which* ～ は前置詞＋関係代名詞で、「そうした決定が行われる条件」となる。

will themselves be shaped by ～ の *themselves* は主語 *the conditions* を強調しており、「条件そのものも～によって形作られる」。that few individuals fully understand は *forces* を修飾する目的格関係代名詞節である。

③ *Beyond the immediate convenience offered by such systems lies a more difficult question: who determines the range of possibilities from which we are permitted to choose?*

[構文] この文は *M(修飾語) + V + S* の完全倒置である。

通常語順は、

A more difficult question / lies / beyond the immediate convenience offered by such systems.

これが場所を表す *Beyond* ～ の前置によって、
Beyond ～ / *lies* / *a more difficult question*

となっている。

したがって、lies の主語は systems ではなく a more difficult question である。

offered by such systems は convenience を後ろから修飾する過去分詞句で、「そのようなシステムによってもたらされる目先の便利さ」。

コロン以下の who determines ～? は a more difficult question の具体的内容を示している。from which we are permitted to choose は the range of possibilities を修飾し、be permitted to V「V することを許される」と組み合わせて、「私たちがその中から選ぶことを許されている可能性の範囲」となる。

④ What appears at first to be an expansion of individual freedom, we may eventually find increasingly difficult to distinguish from a subtler form of dependence.

[構文] 今回の最重要構文の一つ。通常の find O C の目的語 O が文頭に前置され、O / S / V / C という特殊な語順になっている。

通常語順に戻すと、We / may eventually find / what appears at first to be an expansion of individual freedom / increasingly difficult to distinguish from a subtler form of dependence.となる。

したがって、S=we V=may eventually find O=what appears at first to be an expansion of individual freedom C=increasingly difficult to distinguish from a subtler form of dependence である。

what appears at first to be ～ は「一見すると～であるように見えるもの」という名詞節。これ全体が find の目的語であり、文全体の主語ではない。

distinguish A from B は「A と B を区別する」。A に当たるものは文頭に移動した What ～ で、B=a subtler form of dependence「より巧妙な形の依存」である。

下線部和訳 | 採点のポイント

① Neither can individuals who have gradually come to depend on systems whose underlying mechanisms remain largely invisible to them[2 点]

Neither による倒置を見抜き、individuals が主語であることを捉える。さらに who ～ が individuals、whose ～ が systems を修飾していることを正確に処理し、「その根底にある仕組みが自分たちにはほとんど見えないシステムに次第に依存するようになった人々も」と訳せていること。

② easily determine how far their choices have been shaped by

forces beyond their control[1 点]

長い主語の後ろの *determine* が主節の本動詞であることを見抜き、*how far* ～ を「どの程度～なのか」、*have been shaped by* ～ を「～によって形作られてきた」と処理できていること。

③ Not only will there be more decisions for individuals to make[1 点]

Not only の前置による倒置を見抜き、*there will be* ～ という通常語順を復元し、「個人が行うべき決定が増えるだけでなく」と訳せていること。

④ the conditions under which those decisions are made will themselves be shaped by forces that few individuals fully understand[1 点]

under which ～ が *conditions* を修飾することを捉え、「そうした決定が行われる条件そのもの、ほとんどの個人が十分には理解していない力によって形作られる」と処理できていること。

⑤ Beyond the immediate convenience offered by such systems lies a more difficult question[2 点]

Beyond ～ / *lies* / S を M+V+S の完全倒置と見抜き、*a more difficult question* を主語として、「そのようなシステムがもたらす目先の便利さの向こうには、より難しい問題が存在する」と処理できていること。

⑥ who determines the range of possibilities from which we are permitted to choose[1 点]

コロン以下が *a more difficult question* の具体的内容であることを捉え、*from which* ～ を「私たちがその中から選ぶことを許されている」と正確に処理できていること。

⑦ What appears at first to be an expansion of individual freedom, we may eventually find increasingly difficult to distinguish from a subtler form of dependence[2 点]

文頭の *What* ～ を主語と誤認せず、*find* O C の O が前置された O+S+V+C と見抜くこと。*what appears at first to be* ～ を「一見すると～であるように見えるもの」、*difficult to distinguish A from B* を「AとBを区別することが難しい」と処理できていること。

採点目安:10 点満点

9～10 点: Neither+助動詞+S、Not only+助動詞+S、M+V+S、O+S+find+C の 4 つの特殊語順をすべて正確に把握し、関係詞による長い修飾部分も整理したうえで自然な日本語にできている。

7～8 点: 文全体の骨格と 4 つの特殊語順はおおむね把握できているが、whose

～ / under which ～ / from which ～ / how far ～ などの一部に軽微な不正確さがある。

5～6 点：大意は把握できているが、4 つの重要構文のうち 1～2 か所で、倒置・主語・目的語・補語などの構造把握に重要な誤りがある。

4 点以下：特殊語順を通常語順に戻すことができず、主節の S・V や find O C の関係を正確に把握できていないため、英文の中心的内容が十分に表現できていない。

最重要採点ポイントは、① Neither can の後ろに長い主語が続いても本動詞 determine を見失わないこと、② Not only will there be ～ を倒置として処理すること、③ Beyond ～ lies S を M+V+S の完全倒置として通常語順に戻すこと、④文頭の What 節を主語と誤認せず、we may eventually find と結びつけて O+S+find+C → S+find+O+C を復元することです。

(B)全訳

私たちはしばしば、技術の進歩は、私たちが利用できる選択肢の数を増やすことによって人間の自由を拡大すると考えている。しかし、選択肢が豊富にあるからといって、必ずしも選ぶことが容易になるわけではない。また、その根底にある仕組みが自分たちにはほとんど見えないシステムに次第に依存するようになった人々も、自らの選択が自分たちの力の及ばない要因によってどの程度形作られてきたのかを容易に判断することはできない。

個人が行うべき決定が増えるだけでなく、そうした決定が行われる条件そのものも、ほとんどの個人が十分には理解していない力によって形作られることになる。したがって、単に選択肢が存在するというだけでは、それが必ずしも真の自由を意味するわけではない。

そのようなシステムがもたらす目先の便利さの向こうには、より難しい問題が存在する。すなわち、私たちがその中から選ぶことを許されている可能性の範囲を、いったい誰が決めているのか、という問題である。システムは数多くの選択肢を提供する一方で、何を想像できるのかを、気づかれぬように制限している場合がある。一見すると個人の自由の拡大であるように思われるものを、私たちはやがて、より巧妙な形の依存と区別することがますます難しく感じるようになるかもしれない。